

大津けいはん タイムス

「大津けいはんタイムス」を手に取っていただきありがとうございます。
本紙は大津市内を走る京阪電車沿線の人々との交流と、まちの活性化を
目指し「大津の京阪電車を愛する会」の会員自らが作った情報紙です。

★「大津の京阪電車を愛する会」は、貴重な公共機関と
しての京阪電車大津線（京津線・石山坂本線）の利用促
進を図ることなどを目的に設立された市民団体です。

■堅田

びょうがん よさむ
病雁の 夜寒に落ちて 旅寝かな
近江八景「堅田落雁」を踏まえた心象風景か。1690年、
住職が門人である本福寺に滞在中、芭蕉は風邪をひい
て寝込んだくJR堅田駅から町内循環バスで本福寺。

■浮御堂

じやう
**鎖明けて
月さし入れよ
浮御堂**

1691年作。せつかくの十六夜の月、
扉を開けて月の光を堂内に、と月見
の舟から詠んだくJR堅田駅から町
内循環バスで浮御堂。

■坂本

**月さびよ 明智が妻の
はなしせむ**

1689年、伊勢の門人宅で妻の懸命な
接待に、明智光秀がまだ貧しく連歌
の会を催す費用に困った時、妻熙子
が髪を売って工面した故事が浮かん
だ。坂本には光秀の城があり、山崎
合戦後、熙子は坂本で殉じた。明智
一族の墓のある西教寺にこの句碑が
建ったく西教寺。

■小関越え

すみれぐさ
山路来て 何やらゆかし 葦草
小関越えは京都と結ぶ古道。1685年、この道
をたどって初めて大津に来た時の句。道沿い
の小関神社に句碑があったが、いまは神社も
句碑もない。写真と記憶だけに残る幻の句碑
(写真④)。



■大津絵

**大津絵の
筆のはじめは 何仏**

1691年1月4日に、大津絵で
は年のはじめにどの仏から描
くのかと詠んだ。東海道の追
分には大津絵の工房や店が並
んでいた。芭蕉のころの大津
絵は仏画(写真⑤)大津市歴史
博物館蔵)中心で、後に戯画
が流行した。<大谷町の月心
寺、茶臼山芭蕉会館、円満院>。

■能太夫

**ひらひらと
あ
挙ぐる扇や
雲の峰**

門人の能太夫・本間主馬宅で
本間が扇をひらひらさせなが
ら舞う姿を、湖の上に浮かぶ
雲の峰のようだと褒め称え
る。1694年作。能と狂言は江
戸幕府の式楽。膳所にも能太
夫の門人がいた。本間宅跡と
される天孫神社南側歩道に扇
型の碑(写真⑥)。



10月12日は芭蕉忌。元禄7(1694)年のこの日、松尾芭蕉は
旅先の大阪で亡くなった。数え51歳。遺体を「木曾塚に送るべし」と遺言し、木曾義仲の眠る現・義仲寺に埋葬された。芭蕉は永眠の地として、江戸でも、故郷(1644年、伊賀上野生まれ)でもなく、近江を選んだ。悲運の武将への共感もあった。
芭蕉が初めて近江に滞在したのは1685年。前年から旅の暮らしを始め、旅の詩人となっていく。以来、死ぬまでの9年間に何度も何度も近江にやってきた。門人に「貴境 旧里のごとくに存ぜられ候……」と書き送り、合計すると1年近い日数を近江各地で過ごした。生涯約1千句のうち約1割を近江で詠んだ。
近江の風光に包まれ、近江の門人たちと交わるのが好きだった。そういう句も残した。1690年、湖上に舟を浮かべ「行く春を 近江の人と 惜しみける」。大津市内に芭蕉の句碑は30基余り。芭蕉の句とともにゆかりの地を訪ねる(各項目末尾の<>カッコ内は句碑の所在地。写真①は石山駅前デッキ上に建つ芭蕉像。没後300年を前にした1993年に地元自治会が建立した)。



■膳所

**湖や 暑さを惜しむ
雲の峰**

1694年、膳所の湖畔の能太夫・遊刀宅で詠む。夕方の湖を涼風が渡ってくるが、湖上には昼間の暑さを惜しむように入道雲がそびえたつく膳所城跡公園。

■義仲寺 (写真⑦)

**行く春を 近江の人と 惜しみける
古池や 蛙とびこむ 水の音
旅に病んで 夢は枯野を かけ廻る**
境内に芭蕉の墓(写真⑧)や近江での定宿とした無名庵がある。芭蕉の句碑をはじめ多くの句碑もある。「古池や」は1686年作。蕉風俳諧開眼の句とされる。「旅に病んで」は死の4日前の句。

草の戸や 日暮れてくれし 菊の酒
重陽の節句(9月9日)には菊の花びらを浮かべた酒を飲むと健康長寿が得られるといわれていた。1691年、無名庵にわび住まいする芭蕉があきらめていると、夕暮れ時に門人の乙州が酒一樽を持ってきてくれた。門人の優しさに触れた嬉しさく馬場児童公園。

■石山寺

**石山の 石にたばしる 霰かな
曙は まだ紫に ほととぎす**
「石山の」は1690年冬の作。寺の名の由来である巨大な珪灰石(写真⑩)の上に、白く固い霰が激しくぶつかり飛び散っていく。白い世界と寒さとリズム感く駐車場から山門へ向かう途中中>。
「曙は」は1690年4月1日早朝に参詣して「源氏の間」を見学、ホトトギスの声を聞いた。陰暦の夏季の第一日にホトトギスの声を聞いた驚き。「曙や まだ朔日(ついたち)に ほととぎす」と即吟、のちに改作したく本堂から多宝塔に向かう途中中>。



■湖と比叡

**海は晴れて
ひえ
比叡降り残す
五月かな**

琵琶湖の雨は止んだが、比叡では降り続けているのか見えない(写真②)。湖と山の雄大な風景を詠んでいる。1688年作く新唐崎公園>。



■唐崎神社

からさき おぼろ
辛崎の 松は花より 朧にて
桜の花の朧もよいが、それより唐崎の松の朧の風情は何とも言えない(写真③)。1685年作く唐崎神社、近江神宮>。

■三井寺

もんたた
三井寺の 門敲かばや 今日の日
1691年作。無名庵で名月の句会が盛り上がり舟を出したく三井寺金堂、円満院>。

■洒楽堂 (現・戒琳庵)

四方より 花吹き入れて 鳩の波
膳所の医師・浜田珍碩(酒堂)の住まい(2面参照)。1690年、招かれた芭蕉はこの句を添えた俳文「洒楽堂記」を贈った。鳩の海(琵琶湖)の四方の岸辺から落花が吹き寄せられ、波となって打ち寄せているく御殿浜>。

■幻住庵 (写真⑨)

先づ頼む 椎の木も有り 夏木立
奥の細道の旅の翌年1690年、門人の膳所藩重臣の曲翠に国分山の草庵を提供され、幻住庵と名付け4か月滞在。この句で終える名高い俳文「幻住庵記」が生まれた。頼もしいこの椎の木陰で、しばらくでも身を落ち着つけてみようく幻住庵>。



■瀬田の唐橋

五月雨に 隠れぬものや 瀬田の橋
煙雨で何も見えないが、瀬田の唐橋だけは隠れず水墨画のように見える。1688年作く東岸の唐橋公園>。

瓦ヶ浜駅のホームに立つと、旧東海道の踏切を挟んで上り下りのホームが左右に分かれ、きわめて変形している。急カーブに設置された駅なのでホームの端は極端に狭い。

瓦ヶ浜駅からは現在では琵琶湖は見えないが「湖岸道路ができる昭和40年頃まではみえていたよ」と話すのは瓦ヶ浜駅すぐ近くの妙福寺住職、小川義秀さん(80歳)。子どもの頃は魚つりや水泳もした。その頃の浜は遠浅で水は澄んでいた。「子溜り(こだまり)」といって町内ごとにそこに行けば近所の仲間が遊んでいて、とにかく遊んでばかりで面白かったと懐かしむ。その時分までは町は土堀や町家の古い町並みがあり、膳所城下の雰囲気の色濃く残っており、旧東海道には人通りもあり賑わっていたそうだ。実際に町を歩いてみると路地が多く、直角に曲がる道もあり戸惑う。城下町特有の防御のためだと納得した。

瓦ヶ浜駅から琵琶湖に向かって5分ほど歩くと、明治から昭和初期まで京都画壇で活躍した日本画家山元春挙が大正期に建てた別荘「蘆花浅水荘(ろかせんすいそう)」がある。書院造りに茶室を点在させた数寄屋造りを基調とする建物だ。(写真⑤上)

寄棟檜皮葺の門を入ると大きなもみじの木がある。書院の縁側に通されると大正時代からの板ガラスが引き戸にはめられ、今ではわずかに湖岸道路の街路樹の間に琵琶湖が見えるが、建築当時は琵琶湖と湖国の山並みを取り入れた素晴らしい借景庭園(写真⑤中)であった。外観から想像出来ないが2階には暖炉もある洋室がある。「明治末に春挙がアメリカに渡っているのもその体験を反映させているのかもしれない」と語るのは、山元春挙の孫の山元寛昭さん(73歳)。設計は春挙自身で、竹づくしの間など洒落っ気があり、細

部まで神経が行き届いた世界が繰り広げられ、これも作品となっている圧倒されてしまい、いつまでも見ていたかった。庭の中ほどには琵琶湖がせまっていた船着場の石垣が残っていて往時をしのばせる。

「蘆花浅水荘」の隣には芭蕉がよく立ち寄った「洒落堂」があった。今は戒琳庵という尼僧のお寺の境内となっているが、そこには「木のもとに汁も膽(なます)も桜かな」の芭蕉の句碑(写真⑤下)がある。

湖が遠のいた借景庭園

途中下車の小さな旅

瓦ヶ浜 かいわい



瓦ヶ浜という地名は、伝えによれば膳所築城に際して、篠津川沿いで瓦を焼いていたとのいわれもあり、さらに城下街道沿いの民家を全部瓦葺に取り換えた時の瓦も焼かれたとも。膳所藩8代藩主・本多俊次の御浜御殿も瓦ヶ浜御殿ともいわれていたという。いろいろな想像をかきたてられる瓦ヶ浜に歴史のロマンを思いおこされる。広い琵琶湖を眺めながらあらためて奥深い瓦ヶ浜にふれる旅だった。

石山坂本線最寄りの句碑



街歩き情報

まちなかで、ふらっと立ち寄れるお休み処

大津百町館 (大津市中央1丁目8-13)

開館時間：10時～17時(月曜日定休) ☎077-527-3636
明治32年築の大津の町家を一般に開放。元々は呉服屋や本屋であった建物を「大津の町家を考える会」が平成13年から保存活動、運営に携わる。「町家の博物館」として自由に見学可能。つるべ式の井戸、おくどさん、中庭など、かつてのその生活を今日に伝えるものが随所に残っている(写真⑥)。



大津市まちなか交流館 ゆうゆうかん (大津市長等2丁目9-1)

開館時間：10時～19時(水曜日定休) ☎077-525-6674
市民の交流の場として、平成20年に大津市がリニューアルオープン(以前は、おもちゃの館「遊遊館」)。1階は、手軽に立ち寄り簡易な飲食もできるおしゃべりの場所。作家の作品展示などにも利用可能。コピーサービスあり。2階は貸室。ピアノ、長机、椅子などを常備。3階はカーペット敷のくつろげる空間。おもちゃもあり出入り自由(写真⑥)。



石山らんらんサロン (大津市粟津町17-11)

開館時間：11時～18時(日曜日定休) ☎077-537-2140
石山商店街振興組合が、買い物客などが出入り自由な場所として、平成24年にオープン。バス待ちの人の利用も多い。頻繁に教室やイベントを開催している。こだわりの手作り品、連携している札幌石山商店街の品なども販売している(写真⑥)。飲食もでき、コピーサービスもある。



南滋賀 手作りの家(大津市南志賀1丁目10-25)

開館時間：10時～16時(水・木・日曜日定休) ☎090-8757-7274 (大伴)
古い民家の中に所狭しと、農具、手作りの竹炭、竹細工などが陳列してある。農具に手を触れて動かす実体験もできる。地元有志「ヤッサシイ*会」(写真⑥)が平成20年から運営。小学生や園児の学習体験やハイカーの立ち寄り場所となっている。
※「ヤッサシイ」とは、南滋賀の方言で「すごいやんか」という意味。



OT 35
かみさかえまち
上栄町

OT 34
おおたに
大谷

OT 33
おいわけ
追分

OT 32
しのみや
四宮

OT 31
けいはんやましな
京阪山科

OT 30
みささぎ
御陵

至三條

■京津線最寄りの句碑

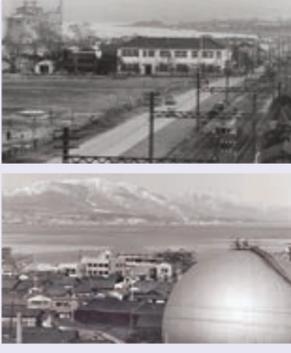
米寿のお祝い写真を無料で撮影してくれる店として知られる谷本勇写真室。県庁近くのその店を立ち上げた谷本勇さん(写真⑦)自身は、米寿を超えて今年92歳だ。

今年5月中旬、92歳誕生感謝記念に「弦月(げんげつ)の琵琶湖を楽しむ」と題する写真集を発刊した。三日月をテーマに平成元(1989)年から撮りためた、県内の風景写真20点が収められている。大津市内の琵琶湖にほど近い場所で育った谷本さん

写真家・谷本勇さん92歳で作品集

京阪沿線でがんばる人たち

大津の町や琵琶湖撮り続ける市歴史博物館の貴重な資料に



湖南町(琵琶湖文化館建設中)・昭和35年撮影
打出浜とガスタンク・昭和41年撮影

は、滋賀県立大津商業学校を卒業後に銀行員として働いていた。その後、昭和19(1944)年に徴兵され、八日市や八尾の陸軍航空隊に配属された。趣味である写真の知識を生かして、偵察機に乗って敵陣を撮影する訓練を受けているうちに終戦となった。戦後、元の職場に復職したが体調を崩して退職。入院生活の後に、昭和23(1948)年、写真への思いから京都の写真家植木昇氏に師事、ここで写真の技術と精神を学んだ。「写真とは何か、写真とは記録する事である」。谷本さん

がずっと大事にしているこのことは、植木氏の言葉だったそうだ。撮った写真を現像し、撮影日時や場所を記録し、整理・保管するという基本を欠かさない。

植木氏の下で撮影技術を学びながら、実兄と「みどりや写真商会」を営んでいたが独立。昭和46(1971)年からは現在の場所で営業している。「撮影の予約のない時は、ちっとも店にいませんでした」と奥さんが話すように、毎日のように町の風景を撮影に出かけていた。そのお陰で、谷本さんが昭和24～52(1949～1977)年頃に撮りためた大津の町の風景が今、貴重な歴史的資料となっている。大津市歴史博物館に寄贈され、本紙にも度々登場している。時代を表す写真に、感動とともに撮影日がしっかり記録されているからこそこの値打ちだ(写真⑦上下)。

谷本さんに写真を撮るときに大事なことは、と教えるを乞うた。「眼で見る力・想像すること・そして光」とのこと。写真を愛好する人たちは皆「そうそう」と、頷くことも知れない。「これだ」という写真を撮るためにどれほどの気持ちと努力を費やすことか。特に、自然の壮大な風景を作品としたい時には。今回の写真集は、三日月の欠け具合にもこだわり、満足のいく写真は年に1枚撮れるか撮れないかであったと言う。そして、谷本さんの次の目標は、「100歳で、星と琵琶湖をテーマにした作品集を出すこと」。その本の1ページになるであろう大事な写真や、愛用のカメラを見せて下さる谷本さんの表情は、意欲に満ち満ちていた。



地域と連携「チーム日吉」

アルミ缶回収・花の街づくり・校区の危険マップ作製

大津市立日吉中学校

沿線の



伝統のスローガン「We love 日吉」を掲げて地域と連携した取り組みで注目を集める日吉中学校。校舎に入ると「祝・リオオリンピック代表 早川賢一選手と数野健太選手」の文字が各所に踊っていた。ロンドンオリンピックでも女子ダブルスで銀メダルを獲得した 垣谷令佳選手を輩出したのがバドミントン部だ。

現在校舎の改築中で、プレハブの仮校長室で山本校長から話を伺った。1947(昭和22)年に新制三和中学校として発足。その後、昭和26年滋賀郡坂本村、下阪本村、雄琴村の大津市との合併により「大津市立日吉中学校」となる。現在、石積の里で有名な歴史的景観が広がる坂

本、新興住宅地で高台の景観が素晴らしい日吉台、農業と観光産業が入り混じる雄琴、人口増加地区の下阪本と、それぞれ特徴が異なる4学区でなっている。現在の生徒数は700名、27学級からなる。

校訓は「切磋琢磨」で部活動をはじめとして生徒会活動、ボランティア活動にも意欲的に取り組んでいる。京阪電車「松ノ馬場駅」には日吉中学校の掲示板(写真⑧上)が2004年から設置され、「切磋琢磨」のタイトルで学校新聞が掲示されている。山本校長によると、人命救助で生徒が表彰されたことを学校新聞に載せたとき、目にした地域住民の方から「嬉しいことですな」と励ましの電話が入ったそうだ。学校新聞が広く表に出ることで、地域との交流に一役買っているのである。このように学校の姿勢の特徴として「地域は一つ 地域で子供を育てる」をスローガンに、地域と密接な取り組みが多い。例えば、平成2年に始まった「日吉子どもサミット」。象徴的なのがアルミ缶回収運動(写真⑧下)で、地元住民が各小中学校にアルミ缶を持ち寄って収集、成果をユニセフに寄付している。生徒たちがネーミングした「日吉台花の街づくり」(写真⑧)などもすっかり地域に根付いている。

平成27年度からは、大津市教育委員会からコミュニティ・スクールモデルの指定を受け、地域一体で「チーム日吉」として学校運営に取り組んでいる。一例として、危険マップの作製があげられる。各学区に分かれて話をし、危険箇所を子ども目線で探し、地域の大人が改善する活動につなげている。伝統ある日吉山王祭も、子どもたちはお祭りに出たいために身を律する一方で、教育面で大きな意味を持つという。話を聞く中で校長から見せていただいたのが「宅配弁当の掛け紙」。地域の社会福祉協議会が高齢者に配る弁当について、同校の美術部と書道部が季節ごとに弁当にかける掛け紙をデザインしているのだ。季節にちなんだ俳句などもあしらっており高齢者に合わせようとしている姿勢に思わず心が和む。お互いを思いやり地域と協働でまちづくり、人づくりに取り組む姿勢が育まれている学校である。

京阪電車知って得する! まめ知識

京阪電車石山坂本線。近江神宮前駅を通る時、カラフルな車両が何台も並び「錦織車庫」が見える(写真㉗)。ここは、京阪電車大津線の車両基地で、車両担当者が約10名いるとのこと。どのような内容の仕事をしているのか、車両はどのように維持管理されているのか。7月に車庫を訪れ取材した。

■安全・快適のための点検・清掃

大津線の車両は石山坂本線30両、京津線32両。運行車両、待機車両、検査車両を調整しながら、安全のため、次の点検・検査が日々実施されている。

- 列車検査：10日に一度、目視による1～2時間の検査
- 月検査：3月毎、目視を主とした車両各部の状態・機能検査

●重要部検査：4年毎、車輪・モーター・台車・ドアを取り外し、ブレーキ装置その他の重要な装置の主要部分についての検査

●全般検査：8年毎、重要部検査よりさらに詳しい検査と部品交換。

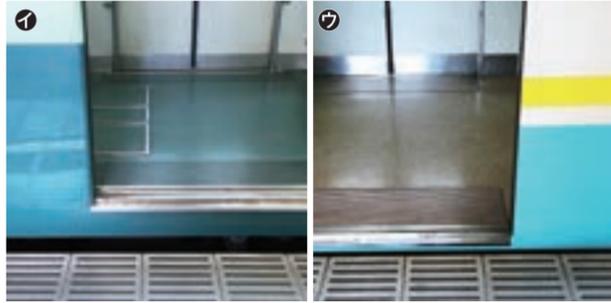
石山坂本線では2両編成の電車を1組とし、重要部検査・全般検査を各1両ずつ1カ月半をかけて実施。京津線では4両編成の車両を1組として各2両ずつ2



カ月半をかけて実施している。

快適乗車のために欠かせない洗車は7～10日に一度、車内清掃は毎日。思っていたより洗車間隔が長いのは、「大津の空気が綺麗だからでしょう」との事だった。

京津線ここしかない特徴 4両編成路面電車 急勾配と急カーブ そして地下鉄線へ



さらに曲線半径40m(半径40メートルの弧の部分を行)という急カーブも加わる。京津線に乗車している時、急カーブ部分では窓から長い車両の後ろが見えて、思わず覗き込んでしまう。車両が、カーブでしなやかに曲がってくれる訳はなく、そのままでは連結部で車両と車両がぶつかり合ってしまう。それを防ぐため、連結部の車両の角は綺麗にカットされている(写真㉘)。浜大津駅で段差や連結部のカットをご覧ください。

久年数は1～2年。ラッピング期間も1～2年なので通常は貼替えないが、重要部検査と重なると、車両の塗装が実施されるので、再度ラッピングとなる。

2016年8月から、京津線で初めてとなるラッピング電車「水の路」が走っている。

■石山坂本線ラッピング電車



石山坂本線で目を引くのは、何といてもラッピング電車。現在石山坂本線では1編成の塗装電車「坂本ケーブル号」と、6編成のラッピング電車が走っている。なかでもアニメ車両「響け！ユーフォニアム」「全国“鉄道むすめ”巡り2015」「ちはやふる」は人気で、休日ともなれば全国から多くの鉄道ファンが浜大津駅界隈でカメラを構えている。インパクトがあるのは「山と水と光の廻廊」、車両一面に大津の季節感溢れる名所旧跡の様子がラッピング(写真㉙)され、乗ってよし・見てよし。大津の町を大胆にPRしてくれている。食指を誘ってくれるのは、夏の「ビールde電車」冬の「おでんde電車」。期間中の夜、ビールやおでんを車内で楽しむことができ、この車両に遭遇すると、季節の訪れを感じることができる。

ラッピング電車は、1300ミリメートル幅のシールに絵柄を印刷し、縦横に車体に貼り合わせて仕上げている。窓部分は貼り合わせてからカットされ、メッシュ加工されたシールに印刷して貼っている(写真㉚)。耐

普段何気なく利用している京津線だが、実は併用軌道(路面電車)を走り、最大61パーミル(水平方向に1000m進むと61m上がる)という急勾配を走り、その先京都市営地下鉄に乗り入れるという、全国でもここしかない路線だ。三つの特徴を合わせ持つ路線だから、車両、ホームには特別な工夫をしている。

<京都市営地下鉄に規格合わせる>

京都市営地下鉄に乗り入れるために車両規格を合わせている。浜大津～上栄町駅間 路面電車区間を琵琶湖の水面をイメージしたパステルブルーをメインカラーとする4両編成電車が走る姿は壮観だ。路面電車の長さは30m以下が一般的であるが、ここでは特別に4両編成で66mの車両長で運転している。

また、車両の床高さは、石山坂本線よりも150mm低くなっている。その様子は共用駅である浜大津駅で、ホームとの段差でも目で確認する事ができる(写真㉛=石山坂本線車両、㉜=京津線車両)。さらに、京都市営地下鉄と京津線では運転形式が違う(簡単にいえば京津線は手動、地下鉄は自動)ため、必要な機器を二重装備し、御陵駅で運転士が交代後、切り替えスイッチを操作する。

<急カーブ向けに車両の角をカット>

日本でも珍しい程の急勾配を走るという山岳鉄道。



(車体上部から連結部を撮影)

「大津の京阪電車を愛する会」会員募集中!

皆さんも本会とともに京阪電車大津線を支えていきませんか?



入会方法

- 入会は1口2,000円です。 ホームページはこちらから
- ご住所、ご連絡先を電話(077-528-2736)、FAX(077-521-0427)にてお伝えいただければ、申込用紙兼振込用紙をお送りさせていただきます。
- 申込用紙兼振込用紙に必要事項をご記入の上、最寄りの郵便局で会費をお振込ください。後日会員証、乗車券等をお送りいたします。

会員特典

- ☆1口(2,000円)につき普通乗車券綴り(170円区間×6枚)がついてきます。
- ☆市内約40施設で割引等の特典が受けられる会員証1枚。
- ☆本会主催のイベント案内等をお送りします。



申込用紙は京阪大津線主要駅に設置しています。

「京阪電車の絵」最優秀作品決定!

大津の京阪電車を愛する会では、市内を走る『京阪電車の絵』の作品募集を行いました。

応募総数は、50通、9月中旬に審査を行いその中から、4作品が最優秀作品に選ばれました。最優秀作品は次年度以降の会員証及びパンフレットのデザインとして採用されます。どの作品も京阪電車が市民の足として愛されている様子が伝わってくる点が評価されました。

また、子どもからおとなまで京阪電車の特徴をうまくとらえ、周辺のあたたかな風景を描いた作品も多く寄せられました。

なお、応募作品は、大津市役所市民ギャラリーにて10月3日(月)～14日(金)までの平日に展示します。



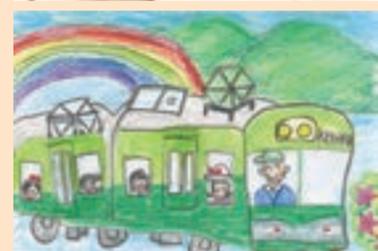
岡本 奈津子さんの作品



松田 彩果さん(9)の作品



佐倉 愛さんの作品



中島 優里花さん(9)の作品

■『ハロウィン電車』(国際親善協会共催)

10月22日(土)に、ハロウィン特別仕様の電車に乗り、ネイティブ講師と英語でゲームや工作を楽しみます。

■『クイズラリー』

11月27日(日)に、沿線スポットに関連した数問のクイズを解きながら、クイズラリーをします。

*イベント応募方法等詳細につきましては、それぞれ1ヶ月前をめどにホームページに掲載いたします。皆様奮ってご参加ください。